広報ふっさ

市の花・つつじ

令和元年
6月1日
No. 1024

人口と世帯数（令和元年5月1日現在）		
人口	男	28,923
	女	29,084
	計	58,007
世帯数		30,560

まちの写真ニュース

第17回ふっさ環境フェスティバルを6月2日(日)に多摩川中央公園で開催します！ 当日はエコレンジャーによるショーも開催！

今号の主な記事

2面 パブリックコメントの結果　3面 プレミアム付商品券販売開始　4面 一緒に「第69回福生七夕まつり」を盛り上げませんか!?
6面 固定資産税相当額を最大50万円キャッシュバック＆金利引き下げ制度のご案内　7面 子育て支援係からのお知らせ

市川重一（いちかわ じゅういち）さん
福生ホタル研究会 会長

特集

いのちを知る。

初夏の風物詩、ホタル。宅地開発が進むにつれて、その数が減少していく中、この貴重なホタルの光を守り、育てようと長年活動を続ける市川さん。活動の背景には、ある想いがありました。

－ホタルが伝える命の尊さを子どもたちへ－

平成3年に発足した「福生ホタル研究会」では、会長の市川さんを始め、多くの会員がホタルの飼育活動を行っています。

市川さんたちが育てるゲンジボタルは、特に飼育が難しく、きれいな水質環境でしか生息できません。さらに、卵から成虫になるまでの飼育期間はおよそ1年。途方もない時間と労力を要するこの活動、それでも続ける理由を市川さんは嬉しそうに語ってくれました。

「美しく飛ぶホタルは、1年かけて成虫になるも、わずか1週間ほどで死んでしまいます。それでも、限られた時を懸命に生きるホタルだからこそ伝えられる命の尊さがあります。私たちが育てたホタルを一人でも多くの子どもたちに鑑賞してもらうことで、命とは何かを知ってもらいたい。」

市川さんたちが守るホタルの光は、命の尊さを伝える光となって、初夏の夜を照らしています。

ホタルの光が見られるまで

環境（住処）

ホタルは、湿度が高く、光の届かない無風の環境を好むことから育成が難しく、福生市では、特設のホタルドームで育成しています。

えさ（飼育）

ホタルの幼虫のえさとなるカワニナも飼育しています。きれいな水にしか生息しないカワニナはキャベツやメロンを食べて成長します。

観察（成長過程）

些細な環境の変化でさえ、ホタルは影響を受けやすいため、福生ホタル研究会では、交代制で毎日観察し、成長具合をノートにまとめています。

祭

市川さんたちが育てたゲンジボタルが、福生の夜を美しく彩ります。

第54回福生ほたる祭

【日時】6月15日(土)午後1時～9時※小雨決行
【場所】ほたる公園、玉川上水青梅橋付近
【問合せ】くるみる ふっさ☎530・2341

全力投球

福生市長　加藤育男

第28回「ふっさ輝きフェスティバル」にて

新しい時代を迎えて

平成の終焉とともに、大リーガーのイチロー選手が現役を引退しました。

引退会見を見ていて、ふと思い出したのが、今から約半世紀前の読売巨人軍の長嶋茂雄選手の引退です。小学校に入学する前から20年以上、野球とともに過ごしてきた自分にとって、昭和の大スターの引退は一つの時代の終わりを感じさせるものでした。

今はさまざまなスポーツが身近にあり、オリンピック・パラリンピックの競技種目も随分と増えましたが、私と同世代の方は、子どものころに空き地で仲間と野球をしたり、家族でテレビ観戦をしたり、スポーツといえば野球だったという方も多いのではないでしょうか。

イチローは引退会見で、「メジャーリーグに来て外国人になったことで、人の心を慮ったり、痛みが分かった。これは体験しないとわからないことで、孤独を感じて苦しんだことはあったが、その体験は未来の自分にとって大きな支えになる。」と言っていました。

東京オリンピック・パラリンピックを前に、外国人観光客は今以上に増えていきます。そして、世界はどんどんグローバル化していくでしょう。

令和の時代、そしてこれからの未来を生きる子どもたちには、ぜひ他を思いやる心を育み、世界に羽ばたいて欲しいと思います。

福生市のホームページアドレスは https：//www.city.fussa.tokyo.jp/ です

再生紙を使用しています。
VEGETABLE OIL INK